

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

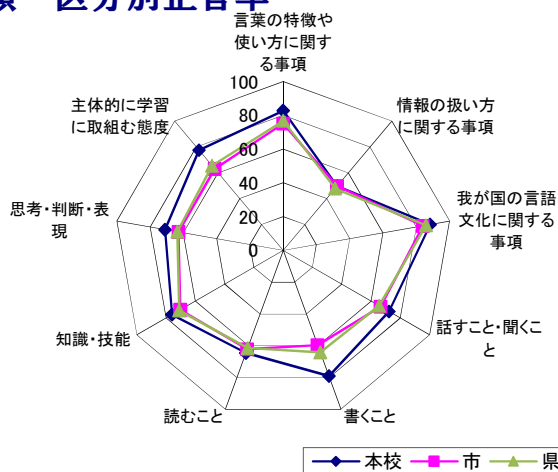
#### 4 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	82.7	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	49.6	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	88.4	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	72.3	66.5	65.5
	書くこと	79.1	59.6	64.2
観点	読むこと	64.5	62.2	61.5
	知識・技能	76.0	70.2	71.1
	思考・判断・表現	71.0	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	77.4	63.0	65.5



## ★指導の工夫と改善

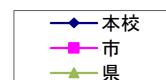
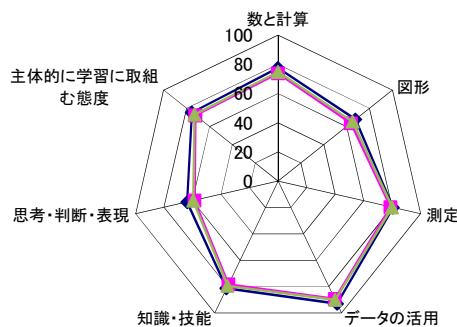
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は82.7%であり、県平均より6.0ポイント、市平均より7.6ポイント上回っている。</p> <p>○既習の漢字の読み書きがよくできている。主語・述語の関係に関しても県平均を大きく上回っている。</p>	<p>・画数の多い漢字の表記や書き順を、日頃からドリル等を活用して正しく身に付けさせる。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は49.6%であり、県平均より1.8ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心を捉えていることがよくできている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られる。</p>	<p>・説明文の学習において、段落相互の関係に注意して文章の構成を考える機会を増やす。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は72.3%であり、県平均より6.8ポイント、市平均より5.8ポイント上回っている。</p> <p>○相手が伝えたいことの中心を捉えている。</p>	<p>・さらに力を高めるために、授業や朝のスピーチ、校長講話等学校生活で話を聞く場面において、大事な言葉や話の中心は何かを考えながら聞くよう指導したり、話の後にどんな内容だったか確認したりする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は79.1%であり、県平均より14.9ポイント、市平均より19.5ポイント上回っている。</p> <p>○自分の考えを明確にして文章を書くことができている。</p>	<p>・さらに力を高めるために、様々な教科において文の構成や言葉の選択を工夫し、読み手に分かりやすく伝わる文を書く機会を増やす。</p>
読むこと	<p>平均正答率は64.5%であり、県平均より3.0ポイント、市平均より2.3ポイント上回っている。</p> <p>○説明文の内容を読み取る設問では、叙述を基に文章の内容を捉えることができている。</p> <p>●物語文の内容を読み取る設問では、場面の様子について記述を基に捉えることに課題が見られる。</p>	<p>・授業の中で場面の様子が分かる記述に注目させ、情景を想像するような活動を取り入れる。</p>

# 宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.5	73.8	74.8
	図形	67.9	63.7	65.3
	測定	80.7	78.9	80.1
	データの活用	93.0	89.3	90.0
観点	知識・技能	81.3	78.3	79.5
	思考・判断・表現	63.8	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	75.4	72.3	73.1



## ★指導の工夫と改善

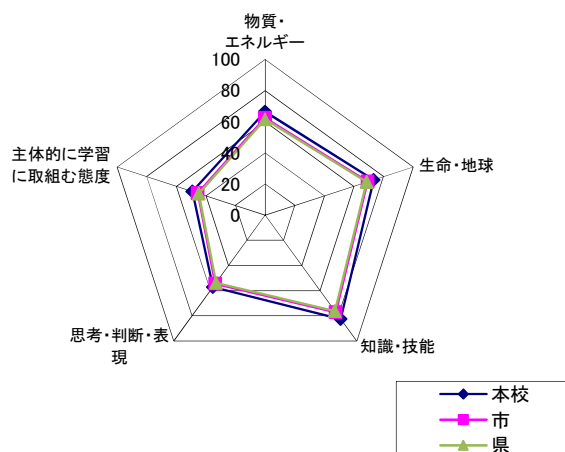
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率が、77.5%であり、県平均が74.8%、市平均が73.8%と同等の正答率と言える。</p> <p>○文章問題を解くために除法の立式する設問では、76.7%で県平均より5.8ポイント上回っている。</p> <p>○あまりのある除法を適用して文章問題の答えを求める設問では、86.0%で県平均より9.3ポイント上回っている。</p> <p>●小数の相対的な大きさについて答える設問では、76.7%で県平均より9.1ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算練習の中でも、式の意味を読み取り、仕組みを正しく捉えていくことを意識させる授業の工夫を行い、確実に身に付けられるようにしていく。</li> <li>・小数の学習においては、小数も整数と同様に十進位取り記数法に基づく数の表し方であることが理解できるようにしていく。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率が、67.9%であり、県平均が65.3%、市平均が63.7%と同等の正答率と言える。</p> <p>○円の直径について答える設問では、90.7%で県平均より5.0ポイント上回っている。</p> <p>●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する設問では、18.6%で県平均より5.6ポイント上回っているが、正答率は低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章をよく読み、問題場面を整理しながら、内容を捉えていけるようにしていく。</li> <li>・図形を構成する要素とその関係、図形間の関係に着目して、多角的な見方ができるような指導をしていく。</li> <li>・図・表などのツールを活用しながら、言葉や文章で表現する力を身に付けさせる指導の工夫、改善を行う。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率が、93.0%であり、県平均が90.0%、市平均が89.3%と同等の正答率と言える。</p> <p>○棒グラフで、一目盛りが表す量について答える設問では、94.2%で県平均より4.0ポイント上回っている。</p> <p>○棒グラフを読み取り、2番目に多かった数量を答える設問では、91.9%で県平均より2.1ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフを用いる学習の際に、グラフの縦軸、横軸が何を表しているか、1目盛りがいくつを表しているかなどのグラフの基本的な読み取り方を確認し、定着を図る。</li> <li>・社会や理科など、他教科での学習でも、グラフを用いて数値を比べたり、数値の差を出したりすることで、グラフの活用を意識していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.5	62.5	61.5
	生命・地球	73.3	69.2	68.6
観点	知識・技能	82.6	77.2	76.3
	思考・判断・表現	57.2	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	49.1	45.5	44.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は66.5%であり、県平均より5.0ポイント、市平均より4.0ポイント上回っている。</p> <p>○磁石の性質についての設問では、県の平均を大きく上回り、鉄くぎは磁石に付けると、どのような性質の磁石になるのか指摘したり、磁石のN極は北を指して止まったりすることを十分理解している。</p> <p>●音の性質の糸電話の音の伝わり方の設問では、県平均を少し下回っており理解が不十分だった。</p>	<p>・糸電話の音の伝わり方の理解が不十分だったので、教科書にある基本的な実験で終わるのではなく、児童から様々な実験方法を出させるなどして、多様な活動へと広げ、理解を深めていく。</p> <p>・自分の言葉で説明することに抵抗がある児童も見られるため、キーワードや話型の提示、他の児童の例の紹介などを通して、書くことに慣れさせていく。</p> <p>・実験や観察の結果から考察をノートに書く時間を十分に取り、自分の言葉を使って説明する活動を多く取り入れていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は73.3%であり、県平均より4.7ポイント、市平均より4.1ポイント上回っている。</p> <p>○昆虫についての設問では、どの問題の正答率も県の平均を大きく上回っており、特に完全変態と不完全変態の昆虫について十分理解することができている。</p> <p>●太陽の動きと影のでき方についての設問では、影のできる向きや動き方について、理解が不十分であった。</p>	<p>・植物や昆虫などの学習では、観察の時間を十分に設け、観察カードに記録させていたことが理解へとつながっていたと考え、引き続き継続していく。</p> <p>・太陽の動きと影のでき方については課題が見られたので、学習後も影時計などを教室に掲示するなどして、日常から太陽の動きや影のでき方について興味をもち、理解が深まるよう支援する。</p>

## 宇都宮市立岡本西小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」という質問への肯定的回答率は96.5%と、県の平均を1.9ポイント、市平均を1.4ポイント上回っている。この姿勢が、学習内容の確実な定着につながっていると考えられる。

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」という質問への肯定的回答率は81.4%と、県の平均を8.0ポイント、市平均を10.8ポイント上回っている。児童が授業や自主学习などに積極的に取り組んでいると考えられる。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という質問への肯定的回答率は88.4%で、県の平均を7.5ポイント、市平均6.7ポイント上回っている。学習・生活の場面において、話し合い活動を積極的に行ってきたことへの成果であると考えられる。

○「しょう来のゆめや目標をもっている」という質問への肯定的回答率は94.2%で、県の平均を6.4ポイント、市平均5.6ポイント上回っている。宮・未来キャリア教育で行っている「宮・未来キャリア・パスポート」などを活用した学習の効果が表れていると考えられる。

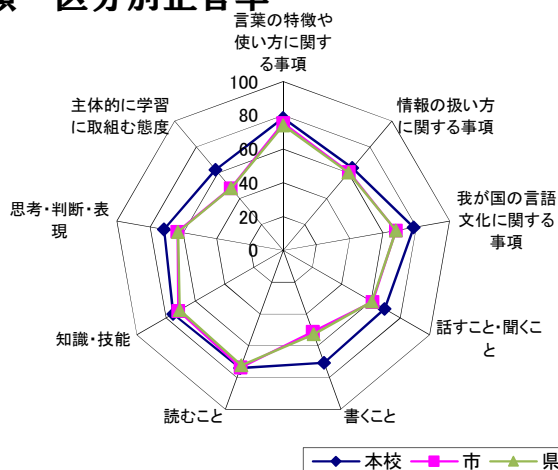
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問への肯定的回答率は47.7%で、県の平均より4.6ポイント、市の平均より4.2ポイント下回っている。発表することへの自信を付けることができるよう、授業で機会を多くもつようにしていく。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしていますか(テレビゲームはのぞく。)」という質問で、1時間以上、2時間より少ない児童は、県の平均より3.4ポイント、市の平均より3.2ポイント上回っている。また、4時間以上が県・市町村ともに、4.8ポイント上回っている。健康や上手な情報機器の付き合い方について学校の各種たよりなどをもとに、家庭への啓発を行っていく。

# 宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	78.4	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	63.6	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	78.4	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	69.3	61.0	60.7
	書くこと	70.7	51.2	52.8
	読むこと	74.1	73.7	72.4
観点	知識・技能	75.2	71.7	70.6
	思考・判断・表現	71.6	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	62.3	48.2	48.1



## ★指導の工夫と改善

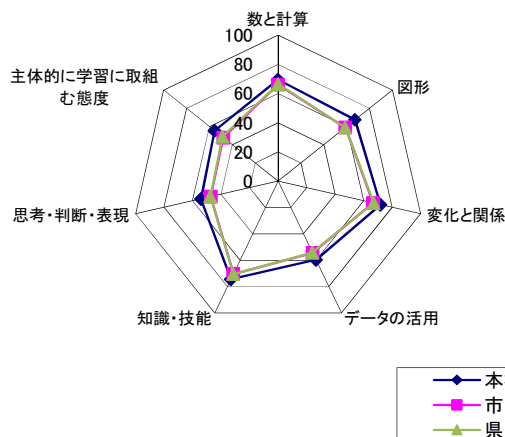
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は78.4%であり、県平均より4.3ポイント、市平均より3.0ポイント上回っている。</p> <p>○既習の漢字を正しく読んだり書いたりしている。</p> <p>●連用修飾語について答える問題において課題が見られる。</p>	<p>・朝の活動や家庭学習においてドリルなどを活用しながら繰り返し漢字練習を行う。漢字を練習するだけでなく、熟語調べや短文作りも行い、語彙力が高められるようにする。</p> <p>・読み聞かせ、本や新聞記事の紹介などを積極的に行い、読書に親しむ時間が充実するよう働きかけていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は63.6%であり、県平均より3.4ポイント、市平均より3.1ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す問題についてよくできている。</p> <p>●情報と情報の関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問題において課題が見られる。</p>	<p>・事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨が把握できるよう継続指導する。</p> <p>・文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりするなど、国語の授業や社会科、総合的な学習の時間などにもつなげ、指導の効果を高める。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は69.3%であり、県平均より8.6ポイント、市平均より8.3ポイント上回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことの中心を捉える問題や、司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめる問題において、よく理解している。</p>	<p>・互いの立場や意図を明確にししながら計画的に話し合いができるような機会を設定し、考えを広げたりまとめたりすることができるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は70.7%であり、県平均より17.9ポイント、市平均より19.5ポイント上回っている。</p> <p>○指定された条件をもとに、段落の役割について理解し、事実を伝える文章を書くことがよくできている。</p>	<p>・朝の学習で取り入れている視写や週末課題の作文が日常化してきており、文章を書くことに慣れてきたので、今後も継続していく。</p> <p>・事実と感想、意見を区別して書いたり、図表を用いたり引用したりするなどして、自分の考えが伝わるような工夫を指導していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は74.1%であり、県平均より1.7ポイント、市平均より0.4ポイント上回っている。</p> <p>○物語や説明文の内容を叙述をもとに捉え、読み取ることができている。</p> <p>●説明文において、中心となる語や文を見つける問題において課題が見られる。</p>	<p>・学校図書館を計画的に利用し、読書活動の推進を図るとともに、物語文では登場人物の相互関係や心情などを描写をもとに捉えられるよう、読み深める活動を取り入れていく。</p> <p>・説明的な文章においては、段落の構成や筆者の考えを意識させ、文章の内容を的確に読み取れるような指導を工夫していく。</p>

# 宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.5	66.1	66.4
	図形	67.4	58.9	58.8
	変化と関係	71.8	66.6	67.0
	データの活用	59.7	54.4	54.2
観点	知識・技能	74.4	70.4	70.6
	思考・判断・表現	54.1	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	55.5	47.8	48.8



## ★指導の工夫と改善

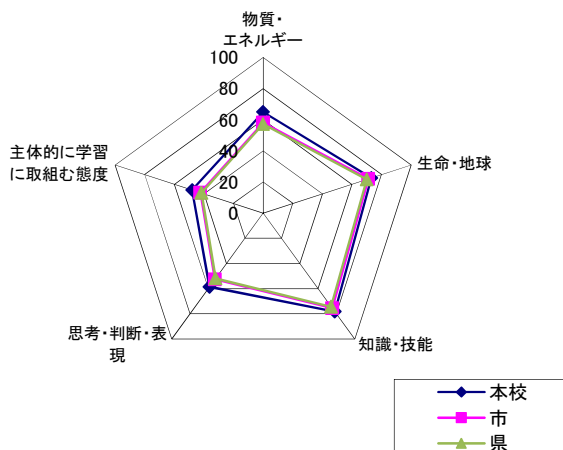
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は69.5%と県平均より3.1ポイント、市平均より3.4ポイント上回った。</p> <p>○四則や( )の混じった式の計算順序についてよく理解している。AIDリルの活用や家庭学習における反復練習の成果であると考えられる。</p> <p>●分配法則の理解に苦手傾向が見られる。</p>	<p>・習熟度別学習を充実させるとともに、繰り返し計算練習に取り組むことで、基本的な学習内容の着実な定着を図る。</p> <p>・分配法則については、4年生の内容を復習するとともに、実際の数を当てはめた問題を多く解くことで理解を深めていく。</p>
図形	<p>平均正答率は74.6%と県平均より1.5ポイント、市平均より0.7ポイント上回った。</p> <p>○角の大きさや面積を求める問題は、いずれも県の正答率を大きく上回っている。</p> <p>○平行四辺形の作図の問題は、78.4%と高い正答率である。</p> <p>●直方体のある面に平行な辺の理解に苦手傾向が見られる。</p>	<p>・角の大きさや面積について、身の回りにあるものを取り上げながら、すぐにイメージし、正しく求められるように練習問題に取り組んでいく。</p> <p>・立体図形について、模型を使いながら形や性質を正しく理解できるようにし、空間についての感覚を豊かにできるようにしていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は59.7%と県平均より5.5ポイント、市平均より5.3ポイント上回った。</p> <p>○二つの折れ線グラフから必要なことを読み取ったり、変わり方を読み取ったりする問題の正答率が高い。</p> <p>●県の正答率よりは高いものの、二次元表から正しい情報を求めるために必要な欄を選び、求め方を説明する問題に苦手傾向が見られる。</p>	<p>・二次元表から正しい情報を求めるために必要な欄を選び、求め方を説明する問題の正答率が低かったため、似た問題を多く解くことで解き方を身に付けさせていく。</p> <p>・授業中に話し合い活動を取り入れ、自分の考えを筋道を立てて伝えられるようにスキルアップを図る。</p>

# 宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.9	58.1	57.2
	生命・地球	73.1	71.1	70.0
観点	知識・技能	78.3	75.5	74.4
	思考・判断・表現	58.7	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	48.0	42.4	41.7



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は64.9%と、県平均より7.7ポイント、市平均より6.8ポイント上回っている。</p> <p>○「電気のはたらき」について、乾電池を2個使って乾電池が1個のときよりも速く走る車にするための回路を作図する問題では、県平均よりも11ポイント高く、正しく直列つなぎの回路を作図することができる。</p> <p>○「ものの体積と力」について問われる問題では、2つの問題とも県平均よりおよそ16ポイント高く、とじこめられた空気の性質についてよく理解している。</p> <p>●「物のあたたまり方」について、金属をあたためたときにどのように熱が伝導していくのか問われる問題では、県平均より5.4ポイント低く、熱の伝わり方についての正しい理解に課題が見られる。</p>	<p>・どの設問においても実験結果から分かることについての理解が高く、実験に対して意欲的に取り組んでいることがうかがえるため、実験を活用しての体験的な活動を充実させていく。</p> <p>・実験をする際に予想を立てて結果がどうなるか予測してから実験したり、実験結果について考察し、自分の言葉で実験から分かったことをまとめたりして、思考力や表現力を高める指導をしていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は73.1%と、県平均より3.1ポイント、市平均より2.0ポイント上回っている。</p> <p>○「1年間の植物の成長」について、季節と桜の様子の変化を問う問題では、県平均より11.1ポイント高く、桜の様子の変化についてよく理解している。</p> <p>○「月と星」について、方位磁針の使い方を問われる問題では、県平均より11.5ポイント高く、方位磁針の使い方についてよく理解できていることがうかがえる。</p> <p>○「水のすがた」について、沸騰石を入れる理由を問われる問題では、県平均よりも11.3ポイント高く、実験を通して沸騰石の性質について理解できていることが考えられる。</p> <p>●「1年間の動物のようす」について、ツバメの1年間の様子を問われる問題では、県平均より6.7ポイント低い。</p>	<p>・1年間の植物や動物の変化については、学校ビオトープを活用し、総合的な学習の時間と連携しながら、引き続き年間を通して観察する体験を充実させていく。</p> <p>・観察や実験を通して分かったことや自然現象について文章で記述する活動を行い、理解を深めていく。</p> <p>・実験などができない物事に対する関心が低く、理解につながらなかったことが考えられるため、模型やICTの活用など視覚的教材を積極的に活用し、理解が深まるようにする。</p>



# 宇都宮市立岡本西小学校 第5学年 児童質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という質問への肯定的回答率は69.3%と、県の平均を10.8ポイント、市平均を7.5ポイント上回っている。教室内や廊下掲示などに児童の自主学习ノートの取組を掲示していることが、自分で学びたいことを見つけて勉強しようとする意欲につながっていると考えられる。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問への肯定的回答率は81.8%と、県の平均を6.0ポイント、市平均を6.2ポイント上回っている。学習・生活の場面において、話し合い活動を積極的に取り入れてきたことへの成果であると考えられる。

○「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」という質問への肯定的回答率は92.1%で、県の平均を2.7ポイント、市平均2.0ポイント上回っている。「岡西小学習のスタンダード」を活用し、ノートの取り方やまとめの観点などを毎時間指導してきたことが、今回の結果につながったと考える。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気ができる」という質問への肯定的回答率は48.9%で、県の平均より6.5ポイント、市の平均より5.2ポイント下回っている。発問の工夫を行ったり、意欲的に学習活動に参加する個々の姿勢を全体にも価値付けていったりすることで、課題に対してチャレンジしようとする気持ちを育てていく。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」という質問の肯定回答率は67.1%で、県の平均より6.5ポイント、市の平均より7.9ポイント下回っている。分からないことがある時には気軽に質問できる場を設けたり、雰囲気作りを努めたりしていく。

●「地いきや社会で起こっている問題やできごとに関心がある」という質問の肯定回答率は68.2%で、県の平均より5.0ポイント、市の平均より6.7ポイント下回っている。90.9%の児童が「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」と回答しているものの、それについて自分でも考えてみるということが少ないと考えられる。国語の授業や一分間スピーチなどでも、自分がどう思ったかなどについて意見をもてるような機会を設けていく。

## 宇都宮市立岡本西小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあてと振り返りの充実	全ての学年で、岡本西小授業スタンダードを活用し、授業の終末でまとめを板書している。「今日の授業を振り返ろう」を参考に振り返りをノートに書く活動を実施している。(岡西小学習のスタンダード)	4年生では、「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の肯定的回答率が84.9%、「授業の最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定回答率が75.6%であった。前者については市・県平均を下回った。後者については、市・県平均と同程度であった。 5年生では、「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の肯定的回答率が93.1%、「授業の最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定回答率が85.2%であった。ともに市・県平均を上回った。
豊かに表現する児童の育成	児童同士の関わり合いを大切にしたり対話のある活動の設定の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。	4年生では、「授業では、話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答率が88.4%であり、市・県平均を6.5ポイント以上上回った。しかし、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」の肯定的回答率が73.3%であり、市・県平均を3ポイント以上下回った。 5年生では、「授業では、話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答率が70.5%であり、市・県平均を12ポイント以上下回った。また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」の肯定的回答率が77.2%であり、市・県平均と同程度であった。
家庭学習の定着	地域学校園で共通の家庭学習の時間の目安と家庭学習の手引きを作成し、自主学习ノートと記録カードを用いて家庭学習の取組を進めている。定着月間・強調月間には家庭と連携し生活習慣の振り返りを行っている。	4年生では、「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答率が96.5%、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答率が75.5%であった。ともに市・県平均を上回った。 5年生では、「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答率が95.5%、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答率が63.6%であった。ともに市・県平均を下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>市・県平均を上回ったものの、国語の情報 の扱い方に関する事項、算数の思考 力に関する問題で課題が見られる。論理 的思考力に課題が見られる。</p>	<p>論理的思考力及び表現力 の育成に努める。</p>	<p>国語では主張の理由や根拠をあげながら話したり 書いたりする活動、算数では筋道を立てて説明する 活動を継続して行う。 学習形態の工夫にとどまらず、発問や問いを工夫 することにより思考が深まる学習活動を展開する。 「思考の言語化」を本校の学習指導に関する課題 とし、日々の授業で指導していく。</p>